

News Letter

■2010年3月1日発行 ■発行／三重大学高等教育創造開発センター



教育開発のガイド No.2

GPA制度の仕組み | The GPA System

背景とポイント

GPA (Grade Point Average) は、科目ごとに付した4から0の5段階の評点 (grade point, 以下GPという) に、各科目の単位数を重みとして算出した平均のことです。近年では、「成績評価の厳格化」というキーワードとともに、日本の大学でも多く採用されるようになりました。2007年度の時点では、295の大学 (約41%) がGPAを導入しています。

三重大学では、2010年度の前期から全学的に導入することになりました。GPAの運用方法は各部局に任されていますので、導入の範囲は部局によって異なります。

成績評価の厳格化

成績評価の厳格化とは、単に低い評価を与えることではなく、基準に従って厳格に (= 基準から逸脱することなく) 評価をすることを意味します。基本的には、各科目が設定する「学生の到達目標」がその基準になります。当然のことではありますが、この基準に従って、到達度の低い学生には低い評価を与え、高い学生には高い評価を与えることの重要性が改めて指摘されているのです。

成績評価基準等の明示等については、大学設置基準 (2008年度より施行) でも定められています。

(成績評価基準等の明示等)

第二十五条の二 大学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがつて適切に行うものとする。

三重大学では、これをもとに、「三重大学成績評価ガイドライン」を制定しています。

2008年に公表された中央教育審議会の答申『学士課程教育の構築に向けて』では、「教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)」の明確化に関して、「教育課程の体系化」、「単位制度の実質化」、「教育方法の改善」とともに、「成績評価」を今後の大学改革の重点項目として特記した上で、学生の成長という点から成績評価を考えることの重要性とともに、「GPAをはじめとする客観的な評価システムを導入し、組織的に学修の評価に当たっていくことが強く求められ

る」という方向性を指摘しています (第2章の第2節)。

このような成績評価の組織的な自己点検・評価については、これまでの日本の大学にはなじみのないものでした。現在、多くの大学が、そのあり方を模索しているところであると言えます。

GPの基準

GPAの導入にともなって、三重大学では、全学的な事項として、「三重大学におけるGPA制度の取扱いに関する要項」(2010年4月1日から施行) を作成しました。

この要項では、GPAを、特定の期間に履修登録または単位修得した各科目のグレードポイントの平均値であると捉えています。具体的には、その科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録または単位修得した科目の総単位数で除して算出した1単位あたりのGPのことです。成績評価、表示、GPの基準について、表1のとおりに定めています。

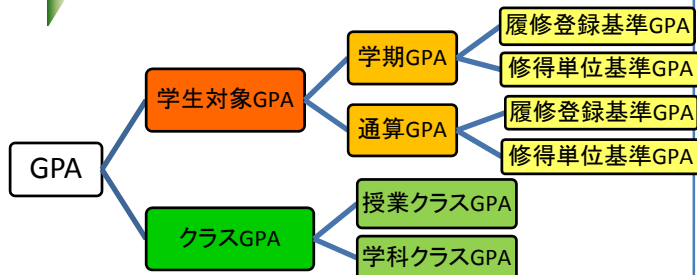
GPAは、成績評価のひとつの方法ではありますが、唯一の方法ではありません。学生の到達状況を把握する指標がひとつ増えたと考えていただきたいと思います。

表1: 成績の評価、表示及びGPの基準

評点 (GP)	評定	評価点	100点参照値	評価内容基準	判定
評点4	AA	10	95~100	科目内容を修得し、到達目標を優れて満たしている。	合格
		9	90~94		
評点3	A	8	80~89	科目内容を修得し、到達目標を十分に満たしている。	
評点2	B	7	70~79	科目内容を修得し、到達目標を概ね満たしている。	
評点1	C	6	60~69	科目内容を修得し、到達目標を必要限度満たしている。	不合格
評点0	D	0~5	0~59	科目内容を修得したと認められず、到達目標を満たしていない。	

GPAの種類

三重大学におけるGPAの種類は次のとおりです。



「学生対象GPA」は、個々の学生のGPAです。学期ごとの成績を算出するGPA(学期GPA)と入学時からの成績を算出するGPA(通算GPA)があります。「学生対象GPA」は、「履修登録基準GPA」と「修得単位基準GPA」からなります。両者の違いは、計算の対象に、履修登録したすべての科目を含めるのか、合格(単位取得)した科目だけを含めるのかという点です。

「クラスGPA」は2種類あります。「授業クラスGPA」は、同一の学期かつ同一の教員(オムニバス形式の科目の場合には、同一の教員団)によるひとつの科目を履修登録した学生をクラスとして定義し、そのクラスの学生がこのクラスで取得したGPの平均です。「学科クラスGPA」は、同一入学年度かつ同一学科の学生をクラスとして定義し、そのクラスの学生が入学時から履修登録した全ての科目で取得したGPの平均です。「クラスGPA」は、どちらも履修登録基準にもとづいて算出します。

GPAの計算対象となる科目

GPAの計算対象となる科目は、評点0から4の5段階評価に換算できるすべての科目で、卒業要件に参入できる科目です。認定科目は含みません。

上記の要件を満たすとともに、三重大学における科目の履修により単位修得した者とみなされた次の科目も対象となります。

三重大学の入学前や、在学中に他大学(短期大学、高等専門学校を含む)で単位修得した科目
外国の大学(短期大学を含む)で単位修得した科目

GPAの計算式

GPAの計算式は、各科目のGPをその科目の単位数で乗じたものの和を履修登録もしくは単位修得した単位数の総和で除します。

$$\text{履修登録基準GPA} = \frac{(\text{GP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録した科目の総単位数}}$$

$$\text{修得単位基準GPA} = \frac{(\text{GP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{修得した科目の総単位数}}$$

例として、ある学期に、次の科目を履修して、次の成績を取った場合の計算式を示します。

科目名	単位数	評価	単位数×評点
オリエンテーションセミナー	2	AA	2×4=8
「4つの力」スタートアップセミナー	2	A	2×3=6
基礎総合科目B	2	B	2×2=4
憲法・政治社会の基本構造 I	4	A	4×3=12
日本史 I	2	B	2×2=4
英語 I 大学基礎	1	C	1×1=1
英語 I コミュニケーション	1	D	1×0=0
ドイツ語 I	1	C	1×1=1

ここでは、GPの総和は36(8+6+4+12+4+1+0+1の合計)になります。「履修登録基準GPA」を算出する場合には、この総和(36)を履修した単位数である15(2+2+2+4+2+1+1+1)で除しますので、GPAは2.4になります。一方、「修得単位基準GPA」を算出する場合には、D評定の科目が対象外になりますので、14で除すことになり、GPAは2.57という結果になります。

望ましいことは、ふたつのGPAの値が同じになることです。学生が「履修登録基準GPA」を意識することによって、「この科目が不合格になっても、別の科目で合格すればいいから、とりあえず登録して、大変だったら履修放棄しよう。」、「合格すれば幸い。あるいは、評点は低くても合格すればよいので漫然と受講する、与えられた課題をこなすだけの勉強しかしない。」という学習態度が抑制されることを期待しています。

GPAを導入するメリットや運用の例については、News LetterのNo.8(教育開発のガイドのNo.3)「GPAの運用例」で説明します。併せてご利用下さい。

本ガイドの作成のために参考にした主な情報

文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」2009.3.31.

[http://www.next.go.jp/b_menu/houdou/21/03/1259150.htm] (2010.2.24.採取)

中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」2008.12.24.

[http://www.next.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm] (2010.2.24.採取)

三重大学「三重大学成績評価ガイドライン」『平成21年度 三重大学学生便覧』2009.4, p.97.

[http://www.mie-u.ac.jp/home/handbook/webt/wysiweb_win_viewer.html] (2010.2.24.採取)